

# 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小田原市の結果について

## 1 調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査対象：小学校第5学年、中学校第2学年

## 3 調査事項および内容

- (1) 実技調査・・・新体力テスト（8種類）
  - ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび ⑤20mシャトルラン ⑥50m走 ⑦立ち幅とび
  - ⑧ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）
- (2) 児童生徒に対する質問紙調査・・・運動習慣・生活習慣等に関する項目
- (3) 学校に対する質問紙調査・・・子供の体力向上に係る取組等に関する項目

## 4 調査実施日

- (1) 実技調査・・・平成29年4月～7月
- (2) 質問紙調査（児童生徒用、学校用）・・・平成29年7月

## 5 実技調査の結果

### (1) 体力合計点（平均）の経年比較

	小学校第5学年						中学校第2学年					
	男子			女子			男子			女子		
	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国
H29	53.90	53.41	54.16	54.50	54.34	55.72	41.59	40.62	42.11	48.13	47.82	49.97
H28	54.58	52.92	53.92	55.65	53.69	55.54	41.56	40.14	42.13	47.61	46.89	49.56
H27	51.94	52.44	53.80	53.56	52.61	55.18	40.85	40.33	41.89	46.42	46.55	49.08
H26	52.41	52.49	53.91	51.98	52.47	55.01	40.36	39.92	41.74	47.17	46.18	48.66
H25	53.14	52.85	53.87	52.71	52.55	54.70	38.67	40.04	41.78	44.85	45.86	48.42

※体力合計点：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した合計点

(2) 種目ごとの平均値 \*T得点：全国平均値を50点とした時の相対的な得点を示すもの

小学校5年生	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力(kg)	16.33	16.90	16.51	49.5	15.89	16.42	16.12	49.4
上体起こし(回)	20.66	19.93	19.92	51.2	19.07	18.49	18.81	50.5
長座体前屈(cm)	33.71	34.46	33.15	50.7	37.63	38.57	37.43	50.2
反復横とび(点)	41.42	39.64	41.95	49.3	38.79	37.38	40.06	48.2
20mシャトルラン(回)	50.73	48.63	52.24	49.3	38.32	36.77	41.62	48.0
50m走(秒)	9.30	9.34	9.37	50.7	9.62	9.62	9.60	49.8
立ち幅とび(cm)	146.53	148.86	151.71	47.6	139.57	142.21	145.47	47.2
ソフトボール投げ(m)	22.28	21.70	22.53	49.7	13.78	13.52	13.94	49.7

昨年度(平成28年度)より、記録が向上した種目が男子は3種目、女子は2種目ありました。昨年度より記録が低下した種目においても、著しく記録が低下しているということではなく、昨年度に近い記録でした。(例：ソフトボール投げでは男女とも10数cm程度の低下等)

県の平均値との比較では、男女ともに5種目で上回っています。また、全国の平均値との比較でも、男子が3種目、女子が2種目で上回る結果でした。

昨年から引き続き、「立ち幅とび」については男女ともに課題となっております。「瞬発力」を向上させるため、足腰の力強さを身に付けるとともに、瞬間的にタイミングよくその力を発揮できるような動きを数多く経験することが必要です。

中学校2年生	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力(kg)	28.20	28.28	28.89	49.0	23.31	23.43	23.82	48.9
上体起こし(回)	27.20	26.75	27.45	49.6	22.74	22.56	23.73	48.3
長座体前屈(cm)	43.90	41.85	43.20	50.7	45.22	44.38	45.86	49.3
反復横とび(点)	51.55	50.09	51.89	49.6	45.49	44.86	46.76	48.1
持久走(秒)	396.51	392.43	391.23	49.2	295.43	291.93	287.36	48.1
20mシャトルラン(回)	82.28	85.14	85.99	48.5	57.07	56.76	59.14	49.0
50m走(秒)	7.89	7.98	7.99	51.2	8.77	8.78	8.80	50.4
立ち幅とび(cm)	190.04	191.12	194.54	48.4	160.24	164.68	168.57	46.6
ハンドボール投げ(m)	20.77	20.17	20.56	50.4	12.84	12.56	12.96	49.7

昨年度(平成28年度)より、記録が向上した種目が男子は6種目、女子は7種目もあり、全体的に記録の向上が見られました。県の平均値との比較では、小学校同様に男女ともに5種目で上回っています。また、全国の平均値との比較でも、男子が3種目、女子が1種目で上回りました。

昨年度の分析から、特に課題とされていた20mシャトルランと持久走(全身持久力)、立ち幅とび(瞬発力)において、記録の向上が見られました。全身持久力の向上には、運動の反復や積み重ねが必要であることから、日常的な運動習慣がより高まった成果として捉えることもできます。

## 6 質問紙調査の結果

### (1) 児童生徒質問紙調査の結果から

小学校第5学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・ やや好き	92.2	93.3	85.9	87.3
体力に自信がある	ある・ ややある	63.7	65.1	46.2	50.6
運動は大切	大切・ やや大切	90.7	92.4	88.8	89.2
体育の授業は楽しい	楽しい・ やや楽しい	93.2	94.4	90.8	90.9
体育授業の目標が示されている	示されている・ 時々示されている	91.3	83.1	91.6	83.2
体育授業で話し合う活動を行っている	行っている・ 時々行っている	91.7	85.1	92.6	85.2
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	39.9	32.9	30.4	25.2

男女とも、多くの質問に、肯定的な回答をする児童が多く、体育の授業に関する質問については、昨年度に引き続き、90%以上の児童が肯定的な回答をしています。また、体育授業の目標が示されている・話し合う活動を行っているという2つの質問では、示されている・行っているという回答が全国平均よりも大幅に多いことから、体育の授業の充実が図られていることが伺えます。一方で、日常生活の中で、テレビやDVDゲーム機やスマートフォン等の画面を長時間視聴している児童の割合が高い数値を示しており、学校以外でも、スポーツや運動をしようとする児童の意欲を育み、環境を整えることが必要であると考えています。

中学校第2学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・ やや好き	90.1	89.0	79.7	78.6
体力に自信がある	ある・ ややある	51.8	52.1	35.4	35.7
運動は大切	大切・ やや大切	90.4	90.6	82.3	84.5
保健体育の授業は楽しい	楽しい・ やや楽しい	88.3	88.2	83.8	83.1
保健体育授業の目標が示されている	示されている・ 時々示されている	93.9	87.0	95.1	86.2
保健体育授業で話し合う活動を行っている	行っている・ 時々行っている	89.8	81.5	91.3	82.5
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	42.6	32.4	41.2	32.4

小学校同様、男女とも、多くの質問に肯定的な回答をする生徒が多く、「運動が好き」という割合は男女とも全国平均を上回りました。保健体育の授業に関する質問についても、昨年度に引き続き、80%以上の生徒が肯定的な回答をしており、生徒が主体的に保健体育の授業に取り組んでいることがわかります。特に保健体育授業で話し合う活動を行っているという回答した生徒の割合が全国と比較しても高く、主体的で対話的な授業を目指す取り組みの成果と捉えています。この小中学校で共通している傾向については、小田原市の学校体育の取組の特長であると捉え、今後も大切にしていきたいと考えます。また、テレビやDVD、ゲーム機やスマートフォン等の画面の視聴については、小学校同様の傾向となっており、市全体の課題であると考えます。

(2) 学校質問紙調査の結果から

小学校・中学校	回答	小学校		中学校	
		小田原市	全国	小田原市	全国
体育/保健体育授業で、努力を要する児童・生徒に対する取組					
授業中に児童・生徒自らが工夫して行えるようにしている	している	80.0	43.6	63.6	32.7
友達同士で教え合いを促している	している	96.0	85.3	81.8	79.9
体育/保健体育授業以外で、体力向上の活動を行う上での取組					
児童/生徒による自主的な準備・計画を取り入れた	している	57.1	30.8	71.4	36.2
前年度、学校全体で体力・運動能力の目標設定	していた	40.0	59.1	45.5	64.8

運動やスポーツが苦手な児童生徒に応じた取組については、本市の課題の一つであると捉えていますが、本年度、各校でこのことを意識し、体育/保健体育の学習に対する工夫を行っている様子が見られました。児童生徒質問紙調査からも同様の回答となっていることから、指導者の意図が児童生徒に伝わっているという点でも評価できると捉えており、今後も継続していけるよう取り組みます。

一方、授業以外の体力向上の活動において、学校全体で体力・運動能力の目標設定をしていたか、の設問については、設定していたとする回答の割合が全国と比較して低くなっております。スポーツ庁の調査報告に、学校全体や学年での目標を設定するとともに、運動やスポーツが苦手な児童生徒に配慮しつつ工夫を行うことが、全体の基礎的運動能力の高まりにつながるという分析があります。本市においても、様々な場面で、適切に目標を設定する機会を設けることで、児童生徒の体力・運動能力を高めていきたいと考えます。

## 7 今後の主な取組

- 各学校においては、「新体力テスト」等により、児童生徒の体力・運動能力の現状を把握し、その結果を体育・スポーツ活動等の指導に生かしていきます。引き続き、体育/保健体育の学習において、児童生徒の自主性を高める工夫に努めるとともに、運動やスポーツが苦手な児童生徒へのアプローチについても工夫していきます。
- 市教育委員会においては、指導員やアスリートを小中学校へ派遣するなどして、児童生徒の体力・運動能力や運動に関する意欲を高める取組を推進します。また、児童生徒の体力・運動能力の向上に向けて、適切な情報提供に努めます。